HTOKMK07
HB000091150218

事故ゼロへ「点検と整備」

『大型車の車輪脱落防止』キャンペーン10年目の願い

一般社団法人日本自動車工業会では国土交通省の協力のもと、2006年より「大型車車輪脱落防止キャンペーン」を展開している。国土交通省自動車局の田端浩局長(57)、元横綱の花田虎上(まさる)さん(44)、プロテニスプレーヤーの杉山愛さん(39)がこのほど、フリーキャスターで城西国際大学客員教授の宮田佳代子さん(48)と日本自動車工業会・梅本久義特別参与(66)の進行で座談会を行い、同活動が訴える大型車両の「点検・整備」の大切さを語り合った。

04年の71件から減少 啓発活動の効果

田端氏「タイヤ交換時は規定のトルクで締める」

杉山愛さん「毎日の点検で異常は分かる」

▲▲ 現役時代、体の"点検・整備"を徹底した杉山愛さん

◆杉山愛（すぎやま・あい）1975年7月5日、神奈川県茅ケ崎市生まれ。39歳。元プロテニスプレーヤー。15歳で日本人初の世界ジュニアランキング（ＩＴＦ）1位となり、92年プロ転向。シングルス492勝（優勝6回）、ダブルス566勝（優勝38回）、グランドスラムのダブルス優勝4回。五輪出場4回。ダブルスでは世界ランキング1位を獲得した。09年現役を引退。現在、テニス中継解説者、スポーツキャスターとして活躍中。

▲▲ 事故発生「ゼロ」を目標に掲げる、国土交通省自動車局の田端浩局長

花田虎上さん「本来のパフォーマンス発揮へ」

▲▲ キャンペーンの"顔"を務める花田虎上さん

◆花田　虎上（はなだ・まさる）本名・花田勝。1971年1月20日、東京都中野区生まれ。44歳。第66代横綱・3代目若乃花。1988年春場所、初土俵。180㌢、130㌔と力士としては大柄ではなかったが、技能派力士として活躍。2000年春場所で引退した。幕内優勝5回、殊勲賞3回、技能賞6回、幕内成績426勝212敗67休。現在はタレント、スポーツキャスターとして活躍中。

"物流の要"だからこそ

梅本「2004年、北海道で大型トラックの車輪が脱落し、当時3歳の子どもが巻き込まれる死亡事故が発生しました。悲惨な事故の再発を防ぐため、自動車工業会では国土交通省や自動車関連団体と協力し、2006年から『大型車車輪脱落事故防止キャンペーン』を展開。花田虎上氏をイメージキャラクターとして啓発ポスターやラジオCMなどで、トラックを所有する企業やドライバーに『点検・整備』の重要性を訴え続けている。10年間にわたり啓発活動を実施した結果、2004年に71件発生していた脱落事故が2012年には11件にまで減少しました」

宮田「71件もあった事故がここまで減ったのも、啓発活動を続けてきたことの効果ですね。(点検・整備を)周知徹底させるとその後ちゃんと(事故が)静まっている」

杉山「普段の心がけで(事故が)ガクっと減るというのには驚きました。残念なのは昨年が一昨年に比べ件数が増えてしまったこと。事故が少ない年が続いても、心を引き締めることの難しさを感じますね」

宮田「大型車の車輪脱落は普通車のそれとは違う。子どもの身長を越えるような車輪がものすごい勢いで飛んでくる。でも、"大型車両がなければいい"という訳にはいかないですよね。生活と密着した働きをしてくれている」

花田「衣食など生活に関わるモノのほとんどがトラックによる物流でまかなわれている。まさに我々の生活の要ですよね。ですから、点検・整備に関しては、ぜひしっかりとお願いしたいんです。僕もキャンペーンに10年携わってきましたので昨年、事故件数が増えたと聞いてとっても悔しくて、残念でなりません。笑顔のポスターが泣き顔になりそうです」

梅本「2012年には花田さんの啓発活動の貢献に対し、国土交通省より感謝状が贈られています」

プロとして仕事の一環

宮田「例えば、大雪が降ってトラックが走れなくなってしまったら、コンビニやスーパーの棚からあっという間に商品がなくなって、私たちの生活はマヒしてしまうかもしれません」

田端「トラックは日本国内の物流の約6割を担っているといわれています。それであるが故に、車輪脱落事故の影響はとても大きい。我々も今一度、点検・整備の啓発活動を行い、その徹底に取り組んでいかなければなりません。やはり目指すは、脱輪事故『ゼロ』ですから」

宮田「アスリートの体も、"点検・整備"は大事ですよね」

杉山「私はケガが少ない選手でした。もともと丈夫ということもあるとは思いますが、"体と心のメンテナンス"に対して、時間、向き合うエネルギーを誰よりも費やしてきたという自負があります。その結果、グランドスラム62回連続出場の世界記録というご褒美がもらえたのかなって思っています」

宮田「"メンテナンス"への意識が高かったからこそケガが少なかったんですね」

杉山「ボールを打つ前に、走ったり、ストレッチをしたり、筋肉に刺激を入れたりと、毎日2～3時間かけてのウォームアップをルーチンとして行っていました。それもプロとしての仕事の一環です。毎日やらないと気持ちが悪い。大型車両のドライバーさんの日常点検と似ているかもしれませんね」

花田「僕はケガが多い方でしたから、自分より大きな相手とのぶつかり合いはかなりでしたからね(笑)。それでも15日間6場所をどう戦っていくか、いつも頭の中でシミュレーションをしていました。ドライバーの皆さんも運行前に『ホイールのナットが緩んでいないか?』とか、色々な状況を想像して車両の点検をしていただきたいですね」

杉山「試合の疲れが抜けきれていない朝は、いつもより体が重かったり、汗をかくまで時間がかかったり。筋肉の違和感など(ルーチンを)毎日しっかりやっていると、自分のコンディションがよく分かります。だから『あれ、おかしいな?』と感じたらすぐ対処ができる。それに気がつかないでコートに出ると、思ったようなパフォーマンスが発揮できなかったり、ケガにつながることもあるのです」

田端「ルーチンを行うことで常に自分の体調をしっかりと把握する。素晴らしいですね」

壊れる前に点検・整備を

◀◀ 大型車両の点検・整備の啓発活動に取り組む、日本自動車工業会の梅本久義特別参与

宮田「ドライバーの皆さんには、車両をご自分の体のように感じてメンテナンスに当たっていただきたいですね」

花田「人間の体は替えられないですが、車両のホイールやタイヤなど、劣化したパーツは交換できますからね」

杉山「現役時代、(体を)替えられるものなら替えたいって時だってありましたよね!」

花田「それはありますよ! 交換出来たら、(現役を)まだやってますよ。白鵬関と戦ってたかもしれない(笑)。大型車両はきちんと点検・整備すれば本来のパフォーマンスを発揮して、事故を防ぐことができます。もしタイヤが外れて飛んでしまったりしたら、それこそ白鵬関だって受け止めることはできませんからね」

宮田「"もしこのタイヤが外れてしまったら…"。恐ろしいことですが、そういう事態をイメージをすると、責任感が強くなるような気がします」

花田「突発的な事故に対応できないお年寄りやお子さんなどに何かあってはいけない。やはりドライバーの皆さんには、大きな責任があることを自覚して運転をお願いしたい」

杉山「昨年は事故の発生件数が増えたとのことですが、現状を把握していただければ、もう一度気を引き締めていただけるんではないかと思います」

梅本「昨年に関しては、大雪による履き替え回数が多かったことや、単純な"うっかりミス"があったようですね」

田端「冬タイヤから通常タイヤへの履き替え時に、ナットの締め方が適正でないと、事故の原因になります。締め具合はゆるくても、締めすぎてもいけません。交換時期に規定のトルクできちんと締めることが大事ですね」

杉山「締め付けすぎてもダメ。遊ばせ過ぎてもダメ」

花田「なんか人間みたいですね」

田端「そうです。適度な加減が大切なんですね。プロドライバーの皆さんには特に意識を高く持っていただき、会社も含めて点検・整備を徹底して行っていただきたいのです」

宮田「そうですね。ドライバーさん、そのお勤めの会社、そして自動車整備工場さんと、何重ものチェックが働くと、事故を減らすことができますよね」

花田「ドライバーさん同士もお互いに声をかけ注意し合えたらいいですね。もちろん角が立たない程度でね」

田端「安全は、我々とって一番重要な責務です。(事故発生)ゼロを目指す。輸送を担うトラックドライバーの皆さん、そして関係各位の意識を高く持って点検・整備に当たっていただければ、決してできないことはないはずです。皆さんに啓発活動をお願いしながら、行政としてもこれにしっかりと取り組んでいく所存です」

▶▶ 活動内容にすっかり詳しくなった宮田佳代子さん

タイヤ交換などホイール脱着時の不適切な取扱いによる、車輪脱落事故が発生しています！ 正しい取扱い(確実な締め付け作業)をお願いします。

注意!!
ホイールナットの締め付け不足
アルミホイール、スチールホイールの取扱いミス
(誤組み付けや部品の誤組み)

※ホイール取付け方式には、ＪＩＳ方式とＩＳＯ方式の２種類があります。それぞれ正しい取扱い方法をご確認いただき、適切なホイール脱着作業の実施をお願いします。

日常の点検方法

1

2

3

3・12か月定期点検

1 タイヤ空気圧の点検

◇タイヤの亀裂や損傷、異常な摩耗がないこと、タイヤの溝の深さが十分であることを点検するとともに、空気圧が規定の範囲内であるかを点検する。

◇特に、ダブルタイヤや偏平ラジアルタイヤの場合は、空気圧が低下していても目視では分かりにくいため、エアゲージを使用して点検する。タイヤの空気圧が不適切なまま、走行を続けると、パンクやバーストを招きやすくなる。また、空気圧が低いまま走行したり、パンクしたまま走行するとホイール・ボルトに無理な力がかかり、ボルト損傷の原因となる。

2 目視での点検

①ナットに緩みはないか。②ナットは付いているか。③サビ汁は出ていないか。④ボルトの出っ張りは不ぞろいではないか。⑤ホイールにひび割れはないか。⑥ボルトが折れていないかを点検する。

3 点検ハンマや小型ハンマを使用しての点検

◇ホイール・ナットの緩みや脱落、ホイール・ナットに損傷などの異常が無いことを点検すること。

◇ホイール・ナットの下側に指を添え、点検ハンマや小型ハンマでホイール・ナットの上側面をたたいた時に指に伝わる振動が他のナットと違っていたり、濁った音がしないか点検する。異常がある場合は、ナットの緩みやボルトが損傷している恐れがある。

自動車点検基準のポイント

〈3か月定期点検〉
ホイール・ナットが規定のトルクで取付けられていることを、トルクレンチなどを用いて点検することを規定。

〈12か月定期点検〉
ホイールを車から取外して、ディスク・ホイールやホイール・ボルトやナット、ハブなどの関連部品を細かく点検すること、取付ける際には規定トルクでホイール・ナットを締付けることを規定。

〈その他〉タイヤ交換時の注意として走行後に一度増締めすること、正しい組合わせのボルト・ナットを使用することを規定。

なお、平成22年より採用された新・ＩＳＯ方式ホイールは、左車輪も右ねじなので、締める方向を確認の上作業する。　※ねじ方向(右ねじ)の識別は、ボルトに『R』の表示あり。

詳しい点検・整備の方法は、日本自動車工業会HP
■ＪＩＳ方式ホイール(または従来のＩＳＯ方式ホイール)車 http://www.jama.or.jp/user/pdf/fall_off_wheel2007.pdf
■新・ＩＳＯ方式ホイール車 http://www.jama.or.jp/user/pdf/iso_wheel_100203.pdf

◆大型車車輪脱落防止連絡会

国土交通省
日本自動車工業会
（いすゞ自動車
日野自動車
三菱ふそうトラック・バス
ＵＤトラックス）
全日本トラック協会
日本バス協会
全国自家用自動車協会
日本自動車整備振興会連合会
日本自動車販売協会連合会
全国タイヤ商工協同組合連合会
日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会
日本自動車車体工業会
日本自動車輸入組合
日本自動車機械工具協会
日本自動車機械器具工業会
自動車用品小売業協会